

ぶらりまち紀行

花に三春の約あり

早春の青空を突き上げるがごとく
 カみなぎる梅の木々に
 無数の花が咲き乱れる
 堂谷川のせせらぎに梅の香りを漂わせ
 訪れる人々を優しく包み込む
 春の息吹に心躍らせ
 句を詠み、絵を描き、花を撮る
 春花の競演は梅に始まり
 椿、そして桜へとリレーされる

～地域の輝き～ 明谷梅林（長生町）



ふるさとの風景を描く
中川さん。（上中町）



週末は大勢の花見客で賑わう。



梅の種飛ばし大会のようす。



県外からも観光客が訪れる。



明谷自慢！八朔、梅ジャム、梅大福、梅干しはいかが。



俳句吟行会で句を詠む皆さん。



剪定や下草刈りを行う
明谷保勝会の皆さん。



山肌に見える石炭窯が
梅林の土を育てています。



売店で売られている明谷の梅干し。

幾重にも広がる梅林の中で、ひときわ存在感のある木があります。推定樹齢100年、久積文平翁お手植の梅です。その堂々たる姿からは年輪を感じます。

明谷梅林の歴史をひもとくと、その始まりは寛永10年（1633年）頃まで遡ります。溪の端に自然に生えた数本の梅の木から始まる梅林の歩み。久積文平さんの「接木」の技術と梅農家の情熱が明谷梅の歴史をつくり上げてきました。

「毎年、梅花が咲く頃になると、清香馥郁として風景良く、四方より飲食を持って堂谷に探梅に集まり、席を設け、宴を催し、終日、吟詠・詩歌を楽しむ。（那賀郡明谷村村史「より）」

梅を愛でる風景は、今も昔も変わっていません。早春を彩る明谷梅林。訪れた人々は、どのような春を感じたのでしょうか。



長野県阿南町役場の庭で咲く明谷の梅。

昨年2月、長野県阿南町議団が研修の一環で本市に訪れた際に贈呈した明谷の「紅梅の木」が開花したとのお便りが届きました。（3月2日）



ようこそ明谷梅林へ！私たちがご案内します。